



高齢者疾患に対する鍼灸治療：パーキンソン病に対する鍼灸治療

鍼灸学部 保健・老年鍼灸学講座

福田 晋平、江川 雅人

附属病院 神経内科

栗山 長門

附属病院 内科

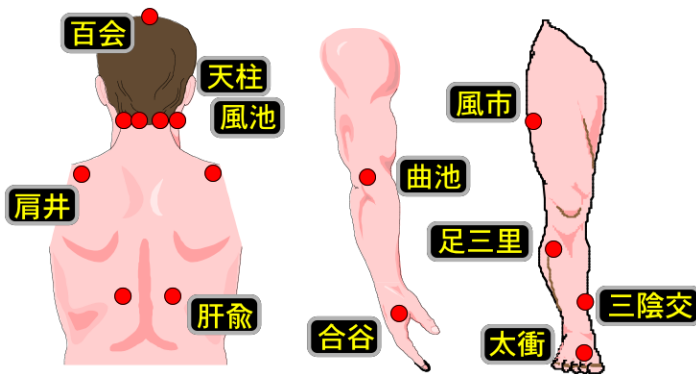
苗村 健治

パーキンソン病って？

パーキンソン病は、手足のふるえ(振戦)、筋肉のこわばり(筋強剛)、身体の動きにくさ(寡動)を示す、中枢神経系(中脳黒質)の疾患で、50歳以上の高齢者に多い疾患です。L-Dopaという薬剤により、症状は改善しますが、次第に効果がなくなったり、副作用症状が出てきたりします。高齢社会の到来によって患者数も増加し、鍼灸治療を希望して来院する患者さんも年々増えています。

明治国際医療大学では「パーキンソン病鍼灸治療専門外来」を開設し、現代医学の薬物治療と鍼灸治療の併用による治療を勧めています。その結果、パーキンソン病に特有な症状が軽減し、投薬量を抑制したり、時には投薬量を減らせることもあります。慢性的に症状が持続する病気ですが、鍼灸治療の併用は、副作用もなく、長く続けられる安全な治療方法として注目されています。

パーキンソン病の治療に使われる経穴



パーキンソン病に特徴的なふるえ(振戦)や筋肉のこわばり(筋強剛)は、鍼灸医学では「肝臓」あるいは「腎臓」の病と考えられており、こうした臓器と関連する経穴が治療点として用いられます。また、中枢神経系と関連が深いとされる「陽明」という名の経絡にある経穴も用いられます。

	症例数 (例)	有訴率 (%)	症状数 (ヶ所)	改善症状数 (ヶ所)	改善率 (%)
表情の乏しさ	10	66.7	10	6	60.0
歩行障害	10	66.7	13	7	53.8
振戦	14	93.3	37	16	43.2
筋固縮	15	100.0	30	8	26.7
立位運動障害	9	60.0	9	2	22.2
前傾姿勢	10	66.7	10	2	20.0
四肢運動障害	12	80.0	34	6	17.6
発声困難	7	46.7	7	1	14.3
動作緩慢	13	86.7	13	1	7.7
姿勢保持障害	4	26.7	4	0	0.0

パーキンソン病に対する鍼灸治療の効果

15名のパーキンソン病の患者さんに対する鍼灸治療の結果(自覚症状の改善)を集計したところ、パーキンソン病に特徴的な症状のうち、「表情の乏しさ」の60.0%、歩行障害(歩きにくさ)の53.8%、振戦(ふるえ)の43.2%に改善が認められました。

また、気分の落ち込み(抑うつ)、便秘、睡眠障害などの自律神経症状、痛みにも鍼灸治療の効果が認められました。

パーキンソン病に対する鍼灸治療の例

患者さんは59歳の男性。パーキンソン病に特徴的な前かがみ姿勢(前傾姿勢)を示し、腹部や背部に強い痛みを感じていました。薬物治療も一時的な効果を示すだけでした。

鍼灸治療を1週間に1回を20回続けたところ、痛みの軽減や食欲の改善と体重増加など、全身状態や症状の改善を認めることが出来ました。右の写真に示すように、鍼灸治療の直後から、前かがみ姿勢の改善が認められました。



鍼灸治療前



鍼灸治療後